

ホッケーのまち

飯能



ホッケー男子日本代表として世界で活躍しながら、飯能市で職員として働く、北里選手。
日本の男子ホッケーは東京オリンピック出場が決まり、北里選手はオリンピック出場候補となる、ホッケー男子日本代表「サムライジャパン」候補選手に選出されています。オリンピックイヤーである2020年を迎え、北里選手と、埼玉県ホッケー協会の会長を務める大久保勝飯能市長に話を聞きました。

知っておきたい！
ホッケーの
基本

18ページに



飯能とホッケーの歴史

飯

能市では、昭和42年に埼玉国体ホッケー競技の会場となったことを契機に、市内でホッケーが盛んになっていきました。平成12年には「阿須ホッケー場」が、平成13年には「美杉台多目的グラウンド」が完成し、平成16年に2回目の埼玉国体が開催され、再び飯能市がホッケー競技の会場となりました。その後、平成19年には「駿河台大学ホッケー場」が完成し、飯能市内に3カ所の人工芝コートができたことで、ホッケーに取り組みやすい環境が整い、全国中学生大会や高校総体（インターハイ）などたくさんの試合が行われるようになりました。また、全国大会での優勝、国体優勝をはじめ、飯能の選手がオリンピックに出場することで、世界最高の舞台への出場が現実となり、多くの子どもたちに夢を与えています。

現在、飯能市では、特色ある地域スポーツとしてホッケーの普及に取り組み、「ホッケーのまち飯能」をキャッチフレーズとして、小・中学校の授業に取り入れるなど、ホッケー人口の拡大に向けた事業に力を入れています。

Kenji Kitazato

1989年5月19日生まれ。熊本県小国町の出身で、地元のスポーツ少年団でホッケーに触れたのが始めるきっかけとなる。現在は飯能市の職員として勤務するかたわら、ホッケーチーム「アルダー飯能」に所属。日本代表では中心選手として活躍。ポジションはミッドフィールダー。175cm、70kg

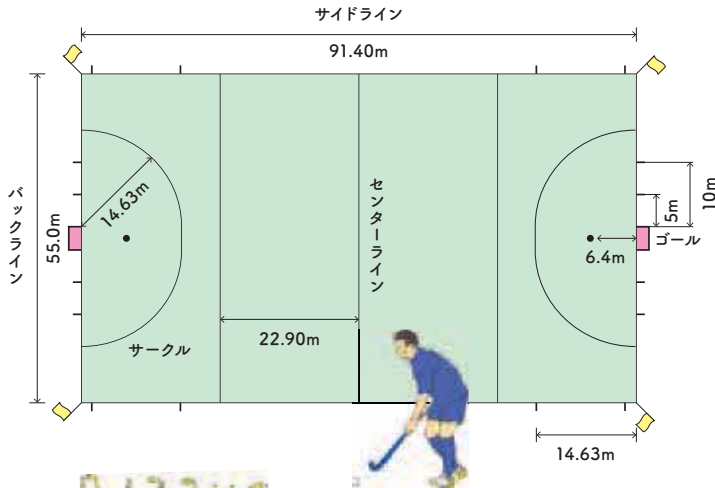
知っておきたい！ホッケーの基本



ホッケーってどんなスポーツ？

『スティックを持って行うサッカー』のようなスポーツです。ホッケーではスティックという道具を使って、野球ボールぐらいの大きさのボールを相手チームのゴールに入れ、得点を競います。競技フィールドは、横 55m × 縦 91.4m。ゴールはタテ 2.14m、ヨコ 3.66m の大きさで、そこにボールを入れて得点を競います。

北里選手のカーボン製のスティックと試合用ボール



ホッケーの用具

スティックとボール…

スティックには「平らな面」と、「丸い面」があり、平らな面と側面部分でボールを扱います。ドリブルなどでボールを運ぶときは、平らな面のみを使うので高い技術が必要です。

ホッケーのボールは、大きさと重さは野球ボールとほぼ同じ、硬さはゴルフボールと同じぐらいです。

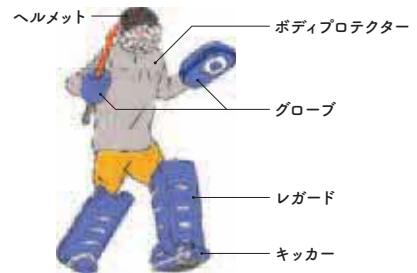
シュートは、時速 160km 以上ものスピードに達することもあります。

試合時間

国際大会をはじめとした大会は、各 15 分の 4クォーター制 (4Q) 計 60 分で実施され、1Q と 3Q の後は 2 分、2Q 終了後は 10 分のハーフタイムが設けられます。

試合人数

出場登録選手は、1チーム 18 名。フィールドに立てるのはサッカーと同じ 11 人で、1人のゴールキーパーと 10人のフィールドプレイヤーによって構成されます。



ホッケーのルールポイント

サークル…

ホッケーでは、サークルと呼ばれる半円の中からシュートを打たないと、得点とみなされません。また、シュートを除いて、基本的にボールを上に乗せてはいけないので、サークル内では、サッカーのように空中にセンターリングを上げることができません。ゴール前の駆け引きが、最大の見所です。

ゴールキーパー…

ボディプロテクター、レガード (すねあて)、幅 12 インチ以下のもの)、キッカー (足の甲あて)、グローブ、ヘルメット等がゴールキーパーに限り使用が許され、キーパーだけはサークル内で全身を使うことができ、体を張ってゴールを守ります。

審判

ホッケーでは審判は 2 人、どちらも主審です。審判といえば警告時に出すカード。ホッケーのカードはグリーンカード (三角)、イエローカード (四角)、レッドカード (丸) の 3 種類です。形が変わっているのも特徴的。グリーンカードは 2 分間の退場、イエローカードは 5 分間または 10 分間の退場、レッドカードは即退場となり、その試合には出ることができません。



選手の交代

ホッケーでは、いつでも、何人でも選手交代を行うことができます。ゴールキーパーの交代以外は選手交代のために試合時間が止まることはありません。

人工芝

ホッケーはもともと天然芝の上で行われていましたが、現在では人工芝で行うようになりました。転倒した際の摩擦によるやけどなどを防ぐため人工芝に水を撒いてプレーします。

